

2019 SUPER GT 第 6 戦

オートポリス

2019 年 9 月 7 日(土)

予選 来場者: 10,010 人 天候: 曇り時々晴れ

LEXUS TEAM KeePer TOM'S 37 号車は、第 5 戦を終えて 44 ポイントを獲得、ランキング 2 位。シリーズも終盤戦を迎え、ウエイトハンディ最大で戦うのがここオートポリス戦。その第 6 戦では、88Kg ものウエイトハンディを課されることとなる。チャンピオンへ向けての戦いは、重さと燃料リストラクターのハンディに耐え、最大限の結果を残すための予選が重要だ。そんな苦しい状況下でも見事 Q1 を突破し、Q2 に進出、7 番手 4 列目のグリッドから決勝レース(65 周)に臨む。



- 88Kg のウエイトハンディの内訳は、実ウエイト 38Kg+燃料リストラクター3 ランクでトップスピードが抑えられている。
- 予選前に行われた練習走行はニック・キャンディが担当し予選、決勝に向けてタイヤ選択を行った。そして、平川亮が選択したタイヤでロングランし確認する作業をした。
- 予選は、キャンディが Q1 を担当し 4 番手で Q2 へ進出を果たした。
- 平川が Q2 を担当し、キャンディのタイムを更新し 7 番手グリッドを獲得した。

Driver	Car No.	Qualifying 1		Qualifying 2	
平川 亮	37	P4		P7	1' 34.935
ニック・キャンディ			1' 35.105		

天候/路面	曇り時々晴れ/ドライ
気温/路面温度	28~26°C/32~33°C

平川 亮 (37 号車ドライバー)



「88Kgのウエイトハンディですから今回は厳しい予選になると思っていました。今回はニックが Q1 を担当するので、午前中のタイヤ選択も担当してもらって、なんと 4 番手で Q1 を突破してくれました。Q1 突破は難しいのかなと思っていたので、そこから、集中して予選に臨んだのですが、それまでロングランしかしていなくて、1分 40 秒くらいでしか走っていなかったんで、1分 35 秒台の走行をしなくてはならないというのは、ちょっとキツかったです、何とか感覚を取り戻して 35 秒を切ることができたので良かったです。

ランキングトップの 6 号車がグリッド後方にいるので、ここで点差を詰められればと思います。表彰台はレースが荒れないと無理かもしれないですけど、事前の菅生のテストでも雨でかなり速かったので、観客の皆さんが大変で無い程度の雨だと良いかもしれません」

ニック・キャンディ (37 号車ドライバー)



「とても重いウエイトハンディを背負いながら、Q1 で 4 番手のタイムを出せたのは自分でも信じられないほどのパフォーマンスでした。ランキングトップの 6 号車は、Q1 で敗退しましたが、われわれも重いし、3 ランクの燃料リストラだからストレートはものすごく遅いです。その状況で Q1 を突破できたのは、凄いことです。しかし、予選の一周でコーナーを頑張ってタイムを出すのと、毎周コンスタントにタイムを出さなくてはならない決勝レースでは、ストーリーは全く違うので決勝は大変苦しい展開になると思うが、今日は素晴らしい予選結果だったことを喜びたい」

小枝正樹(37号車エンジニア)



「事前に今回は、ニックでQ1を突破しようという計画で来ていて、集中してタイヤの選択をしてもらって、亮にはそのチェックとロングランを担当してもらうことにしました。これによってタイヤの選択はうまくいったと思います。ウエイトハンディがきつかったですが、Q1を4番手で突破できたのは予想以上の出来でした。そして、亮は、いきなりのアタックでしたが、7番手で4列目のグリッドを得てくれましたので、決勝でも何とかできるだけ多くのポイントが稼げるように作戦を立てたいです。しかし、一番大きな要素は天候の変化ですね。それを作戦に織り込んで考えなくてはなりません」

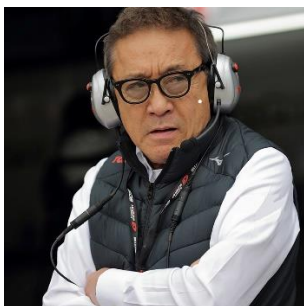
山田 淳(37号車監督)



「今回の計画、作戦として二人の役割を事前にきっちりと決めて臨んで、二人のドライバーのコンビネーションもとても良くて、予想以上の予選結果を得られました。Q1とQ2で同じタイヤで走行していますから、決勝スタートのタイヤ抽選*も気にすることはないのですが、100%満足しているわけではないので、決勝はどのような展開になるのかは、やってみないとわかりません。

と、言うのは88Kgというウエイトハンディを積んでいるわけですから、それなりの戦い方しかできないですから。ポールポジションの17号車NSXの(決勝での)速さは見えないですが、選手権ライバルの6号車が予選下位に沈んでいるので、前でゴールしてポイントを得て笑顔で終えたいと思っています」

館 信秀(総監督)



「Q1突破すら難しいのではないかと感じていただけに、この結果には大満足です。そしてポイントランキングの6号車が苦しんでいる状況で、チームとドライバーが頑張ったことを本当に嬉しく思っています。さすが、我がTOM'Sです。ここでポイントを稼いで終盤戦のチャンピオン争いに持ち込みたいですね」

*1: Q2に進出した上位8台が決勝スタート用に装着するタイヤは、ポールポジションを獲得したドライバーが引くクジで決定する。Aを引けばQ1で使用したタイヤ、Bを引けばQ2で使用したタイヤを上位8台が装着する。

2019 SUPER GT 第6戦

オートポリス

2019年9月8日(日)

決勝

来場者: 17,300人

天候: 曇り時々雨

2019年の終盤戦に入り、チャンピオンに向けてさらに攻める姿勢を見せる LEXUS TEAM KeePer TOM'S。その37号車は、7番手グリッドからスタートし、レース序盤から果敢なドライビングで順位をアップ。特に雨の降り始めで不安定なグリップの状況でも、スリックタイヤで怯むことなく5番手まで進出。早めのピットインを判断し再びスリックタイヤを装着しコースへ送り出した。その後に雨が強まる時間帯もあったが、チームはステイアウトを判断。ドライバーもそれに応じて耐えて、終盤に路面が乾き始めるとトップの車両(レインタイヤ装着)よりも約10秒速いタイムで周回し、最終周に一気に3台をパスし3位へポジションアップ。3位表彰台をゲットし11点を獲得。ランキング2位。首位との差は10点となった。



- ニック・キャッシュディが、スタートドライバーを担当。
- 15周目あたりから小雨が降り始めた。その後1コーナー付近だけ雨脚が強まり各車がペースダウンする中、37号車は濡れた路面でも圧倒的な速さで5番手まで順位アップした。
- 29周しピットイン。ドライバー交代、給油。そしてタイヤはスリックを装着し、平川亮が戦線復帰したが、その後雨が強くなりセーフティカーが2回コースインする混乱した展開となる中、37号車はスリックタイヤで走行を続けた。
- レインタイヤを装着したマシンに有利な路面コンディションが続き、8位まで順位を下げてしまったが、チームはコンディションの好転を予測し、そのまま走行を続けるよう指示した。
- 予想どおり、残り10周時点で雨があがり、走行ラインが一気にドライアップした。
- 62周目に7位。64周目に5位へ。
- 最終周に一気に3台をパスし、3位でゴールラインを切った。
- ランキングトップの6号車が6位フィニッシュしたが、第5戦終了時点の16点差を10点に縮めて残り2戦へ臨む。

Driver	Car No.	Race Result/Fastest Lap	
平川 亮	37	P3	1' 40.409
ニック・キャンディ			1' 38.143

天候/路面	曇り時々雨/ドライ-ウエット-ドライ
気温/路面温度	29°C~25°C/38°C~28°C

平川 亮(37号車ドライバー)



「終わってみれば、3位表彰台を獲得できて作戦は正しかったということですね。しかし、ピットアウトして行ったらどんどん雨の量が多くなって、コース上にマシンをとどめておくだけでもスリックタイヤではとても難しい走行でした。無線で自分から何度も「ピットイン、ピットイン」と叫んでいました。今回の一戦だけで30年くらい寿命が縮まったのではないかと思うほど大変な思いをして周回を重ねていました。スピンもしましたし、それでコースアウトしないで直ぐに立て直してレースを続けられたのは良かったですね。しかし、走行中は順位を知らされていなかったのも、最終ラップに複数台パスしても実は3位になれたとは最後の最後まで知らなかったです」

ニック・キャンディ(37号車ドライバー)



「ピットインして Ryo に交代した時には、スリックタイヤでコースインしたのがものすごく心配でした。自分のパートではタイヤが十分に温まっていたので少しウエットでも大丈夫でしたが…。ペースとしてはトップ同等の速さがあったと思います。セーフティカーが入ってタイヤは冷えるし、あのままウエットコンディションだったら3位にはなれなかったですね。最終的にチームの判断は正しかったし、僕のパートナーは最高のドライバーです。パートナーとなって3年で今回が11回目の表彰台となりました。この数字を見ても我々が最高の関係であることが分かります。チャンピオンへ向けて、残り2戦も頑張って昨年取れなかったタイトルを獲得したいです」

小枝正樹 (37 号車エンジニア)



「今回は二人のドライバーの力で得られた 3 位表彰台ですね。序盤からニックが濡れ出した路面でも順位アップしてくれました。雨の状況を読みつつピットインのタイミングを決めて、結果的には他のチームよりも早めのピットインとなりました。そして雨の量が多くなって、スリックタイヤで送り出したのが失敗だったかと思いましたが、雨が濡れた路面でもスリックからレインへ交換する判断となるラップタイムのクロスポイントギリギリで走行してくれました。

最後に路面が乾いてくれれば、スリックが有利になることを信じてステイアウトしてもらいました。そして雨も上がってくれ、終盤のすごい順位アップと繋がりました。ランキングトップの 6 号車との点差をつめることもできたので、あと 2 戦を全力で戦います」

山田 淳 (37 号車監督)



「セカンドステントを見守っていて、ピットでもどうしようか気を揉んでいましたが、ドライバーが素晴らしいドライビングで周回を重ねてくれていたので、少しでもコンディションが良くなれば絶対に順位アップしてくれると信じ、ピットインせずにステイアウトしてもらいました。ファーストステントのニックも濡れ始めた路面で順位アップするという彼らしいドライビングを披露してくれました。3 位ゲットで 11 ポイント獲得して 6 号車との差を 6 ポイントも縮めることができました。昨年 1 点差でチャンピオンを逃していますので、王座奪還に向けて突き進みます」

館 信秀 (総監督)



「いやー、素晴らしいレースでした。天候に翻弄される状況下でチームも頑張ったけれど、今回は二人のドライバーがなんと言っても最高の仕事をしてくれました。ニックのパッシングも痺れたけれど、亮の最終ラップはスーパーGT 史上でも語り継がれる 3 台抜きだったでしょう。欲を言えば、終盤のスピニングがなかったら 2 位になれたか、もしかしたら優勝できたか？あまり欲をかくと良いことはないから、今回は、3 位獲得を喜ぶことにします」